

インフォーマル・セクター研究の系譜： 過剰都市化論からグローバル化の中での 労働のインフォーマル化へ

松 蘭 (橋本) 祐 子

はじめに

本稿の目的は、インフォーマル・セクター⁽¹⁾研究を追うことによって、途上国都市におけるインフォーマル・セクターの変化、および今日のインフォーマル・セクターの問題を考察することにある。途上国都市にみられる不安定就業層をさす用語として、インフォーマル・セクターという言葉が登場してから、30年あまりが経過した。初期のインフォーマル・セクター研究は、途上国都市の貧困問題として展開していた。その後、さまざまな議論が行われるとともに、インフォーマル・セクターに対する政策も行われてきた。しかし、経済発展にもかかわらずインフォーマル・セクターの規模は目立った減少を見せておらず、セクター内部での重層化や新たな職種の発生など変化がみられる。

さらに、今日のグローバル化の中では、労働のインフォーマル化が進行しインフォーマル経済が広がっている。この変化は途上国だけでなく先進国にも及んでいる。グローバル化は、労働のインフォーマル化を広範に推し進め、途上国都市の貧困問題を国内格差の問題からグローバルな問題へと複雑化させた。

インフォーマル・セクター論は、発展途上国の都市化のある過程だけに限定された議論としてではなく、先進国、途上国を通じてグローバル化における貧困問題を解明していく手がかりとしなるとして議論として考える必要がある。

1 インフォーマル・セクター定義と問題提起

(1) 過剰都市化論、二重経済構造論とインフォーマル・セクター論

発展途上国の都市でよく見かける露天商、廃品回収人、自転車タクシーの運転手、日雇い労働者などの不安定な就業層である都市雑業層を、「インフォーマル・セクター」と定義して、問題提起をおこなったのはILOのケニアレポートであった (ILO 1972)。

(1)

初期のインフォーマル・セクター研究の理論的位置づけは、過剰都市化論、二重経済構造論であった。途上国の都市は、1960年代以降、工業化に先行する形で人口が流入し急速に都市化した。工業化で生み出されるはずの近代的雇用部門であるフォーマル・セクターが小さく、大量の失業者が都市にあふれていた。このような過剰都市化においては、低生産性、低賃金、不完全就業によって特徴づけられるインフォーマル・セクターが、都市に広範に存在し、その上、農村労働力が持続的に都市に流入しそのインフォーマル・セクターが膨張していた。労働移動を賃金格差の被説明変数とするハリス＝トダロモデルに反するこの事実を説明できる労働移動モデルが求められた（渡辺 1985）。二重構造論の延長上に雇用構造の分類、機能を問題とし、フォーマル・インフォーマルの対比として捉えていたのである（幡谷 1986）。過剰都市化と都市貧困層、スラム、インフォーマル・セクターは一体と考えられていた。工業化が進展して過剰都市化が解消されれば、フォーマル・セクターが拡大して、インフォーマル・セクターは解消するとされていた。

（2）インフォーマル・セクターの定義

ILOの定義でインフォーマル・セクターの特徴とされているのは、以下のような点である。①参入障壁が低いこと、②現地の資源を利用していること、③家族的経営など小規模な生産単位、④労働集約的で低い技術水準、⑤正規の学校教育以外で技術を取得、⑥公的統制されていない競争的な市場であること、などである（Sethuraman 1976:125）。

農村出身で学歴も技能もない移住者が、とりあえずの収入を得るために行う不安定な雑業という位置づけであった。ILOの問題提起は、定義だけでなく、このインフォーマル・セクターの機能を、経済発展と貧困者の生存戦略の二面から積極的に評価したことにある。その後、30年あまりさまざまな議論が展開されてきたが、概念や定義は確立されたわけではない。この定義は一見明確であるが、実際の測定はかなり困難である。

ILOをはじめとして、規模を測定する場合には、この定義を各国の労働統計などに当てはめて、フォーマル（＝近代的組織部門）ではないことに注目してインフォーマル・セクターの規模を測定している（鳥居・積田 1981）（ILO 2002）（Hussmanns et. al., 2002）。統計で捉えた雇用状況、産業分類、職業分類によってフォーマル・セクターを定め、その残余をインフォーマル・セクターと見なして算出する。この場合、統計のどのカテゴリーをインフォーマル・セクターと見なすかによって数字は大きく変化する。⁽²⁾

（3）インフォーマル・セクターの実態

個々の都市での事例研究が行われにつれ、インフォーマル・セクターが雑業だけではない実態が明らかになっていく。木曾は、1980年代のインドの事例に基づいて、インフォーマル・

セクターからフォーマル・セクターへの財、サービスの連関（衣類製造業、廃品回収業、建設業など）を見だし、インフォーマル・セクターは農村からの移住者の自己再生産的膨張だけでなく、フォーマル・セクターの需要によって裏付けられてきた部分があることを指摘した（木曾 1987）。

すなわち、フォーマル・セクターの労働コストを低く維持するため、フォーマル・セクター労働の絞り込みが行われ、インフォーマル・セクターのフレキシブルな労働力で補う「チープレイバー経済」が成立していること、インフォーマル・セクターから安価な財やサービスの提供をうけることで、フォーマル・セクターの人々の生活費を下げることができ、フォーマル・セクターの再生産コストを下げる効果もあること、である。途上国都市の中高所得者生活にインフォーマル・セクターのサービス業が深く関わってきたことも、重要な指摘であった。

インフォーマル・セクターのなかに、単に雑業層だけでなく、フォーマル・セクター依存部分があることは、新津も指摘している（新津 1988）。インフォーマル・セクターとフォーマル・セクターの連関については、タイの縫製業の事例として経済発展への寄与も指摘された（パスック・糸賀 1993）。

ILOの問題提起は、インフォーマルであることよりも、このセクターの存在によって、途上国都市の失業が貧困の分かち合いによって緩和されていることにあった。しかし、就業や収入の不安定性は問題であり、改善は開発の目標であった。

2 インフォーマル・セクターの変化

(1) インフォーマル・セクターの内部構造: 貧困層とインフォーマル・セクターのずれ

80年代前半くらいまでのインフォーマル・セクター研究は、途上国都市の貧困問題、経済開発の問題として、社会政策、労働政策として開発戦略上に位置付けられている。しかし、80年代には、貧困層、スラム住民、インフォーマル・セクターのずれが実態調査によって次第に明らかになっていく。まず、指摘されたのはインフォーマル・セクターが必ずしも貧困ではないこと、開発や高収入の可能性についてである。

鳥居は、インフォーマル・セクターの規模、内部構造の調査を行い、途上国において深刻な問題になっていることを問題提起するとともに、タイや韓国のスラムでの家計構造調査にもとづき、インフォーマル・セクターは発展の可能性のない絶望的な貧困部門であると見なすべきではないことを強調している（鳥居他 1990）。

下川はフィリピンを事例に、経済発展のもとでもインフォーマル・セクターが存続するメカニズムを解明するため、ハリス＝トダロモデルにインフォーマル・セクター内の高所得者

層を導入した分析を行っている。「ハリス＝トダロモデル」では都市にはフォーマル部門と失業者しかいない前提であり、最低賃金（都市フォーマル・セクターの賃金）が一定なら、資本蓄積は必ず都市インフォーマル率を減少させるはずである。「下川モデル」では都市の公共資本の蓄積によって、都市インフォーマル・セクターの高所得事業家の生産性が上昇し、結果として都市インフォーマル・セクターの割合が拡大する可能性があるとしている。事実、フィリピンの都市インフォーマル・セクターの高所得事業家の所得は最低賃金の5倍であり、農村都市間の移動においては、都市インフォーマル・セクターの高所得は重要な説明変数となることが示された（下川 1998）。

（2）インフォーマル部門の位置づけ

佐藤は、インフォーマル・セクターの生成、存続のメカニズムを二重経済構造論ではなく、従属論的ダイナミズム、周辺資本主義による貧困化で説明しようとする。すなわち、インフォーマル・セクターの存続を支える基盤がインフォーマル・セクターにあり、近代産業部門の労働費用を下げる働きもあること、また、生活の安上がりのため、インフォーマル部門の存続が周辺国工業化過程と不可分の関係にあるからである。

インフォーマル・セクターが存続するとすれば、その基盤は静態的ではあり得ない。都市化がインフォーマル・セクターを生み出すのではなく、工業化がインフォーマル・セクターを生み出すという仮説である。この指摘は、後述するグローバル化における労働のインフォーマル化を示唆している（佐藤 1989）。

（3）インフォーマル・セクターへの支援策と問題点

1991年のILO78回総会では「インフォーマル・セクターの抱えるジレンマ」がテーマとなった。インフォーマル・セクターを雇用と収入の提供者として発展させるべきか、規制や社会的保護をインフォーマル・セクターまで拡大すべきか。その結果報告書は、「雇用創出のために適切、かつ低コストの手段としてインフォーマル・セクターをILOが育成発展させることに関しては、そこに見られる最悪の形態の搾取、および非人間的な労働条件を順次排除するような平行した努力がなされない限り、可能性はない」と結論づける。

すなわち、貧困層、失業者に対する雇用、収入確保の利点のみとめ、経済発展への効果を評価しつつも、その労働条件の搾取性もしくは劣悪さの改善は必要、という立場である。これらを受けて研究レポートでは、安くてフレキシブルな労働力を評価しつつも、労働者の能力開発、労働者の権利や組織化に焦点が当てられる（Servais 1992）（Maldonado 1995）（ILO 1996）。

政府やNGOなどによるインフォーマル・セクター支援プログラムにおいては、収入の面

で評価される小規模事業支援策として、マイクロクレジットや職業訓練が中心となっている。アジアにおいては、都市インフォーマル・セクターのポジティブな点が評価されることが多い。インフォーマル・セクターからフォーマル・セクターへの移動よりも、インフォーマル・セクター内での自立的発展を促し収入を高めるための支援である。その際の問題と対策は主に3点ある。まず、生産活動の場、土地や場所へのアクセスの支援である。具体的には、コミュニティの組織化やスラム改善、再定住計画として行われる。第二は資本、資金、クレジットへのアクセスの支援である。貯蓄グループや貯蓄信用組合の形成、マイクロクレジットの活動などが行われている。バングラデシュのグラミン銀行や、タイのCODIは成功例として挙げられることが多い。三番目は市場へのアクセスの支援である。原材料の調達、生産物の販売などに対する共同対応が課題となる。

このような途上国インフォーマル・セクターにおける小規模事業の促進は、その国の経済発展や貧困解消に対して有益という主張は1970年代から行われてきた。下川は、これらのサポート策において、三番目の市場へのアクセスが限られていることが問題であることを指摘している。インフォーマル・セクターでのクレジットへのアクセスの改善による小規模事業の促進は、一部の高収入層を形成はするが、貧困層の減少には役立たない可能性があるのである（下川 1999）。

1980年代にインフォーマル・セクターを減少させるために行われた、開発政策、さらには、生活戦略としてのインフォーマル・セクター支援策（小規模経営者育成、インフォーマル金融など）によって、多様化していたインフォーマル・セクター内の格差はさらに拡大した。インフォーマル・セクターの成長や、経済規模の拡大は起こったが、フォーマル・セクターの拡大が依存部門としての新たなインフォーマル・セクターを生み出すことも事実であった。

3 グローバル化とインフォーマル・セクター

1980年代後半以降、途上国もグローバル化と深く関わるようになってくる。インフォーマル・セクターの問題も、農村からの移住者に焦点をあてて、国内の農村＝都市関係にのみ注目するだけでは不十分であることはもはや明らかであった。グローバル化の中でのインフォーマル・セクターの知見をいくつか例示すると、特に市場との関連や、都市政策、経済政策などとの関連が重要となっていることがわかる。

(1) グローバル化の中でのインフォーマル・セクター：労働のインフォーマル化

佐藤は、韓国を例に、インフォーマル・セクターの位置づけを論じている。資本主義世

界システムからの所与の条件を受け入れ、それを内部化する形ですすめられた「現代的工業化」においては、インフォーマル・セクターがそのシステムを下から構造的に支えていると述べている。近代工業部門のトランスナショナルな経済循環である「現代工業化」においては、その外側に直接に搾取的な関係自体を再生産するメカニズムが存在している。インフォーマル・セクターは労働者階層の重層的構造を通して、工業化過程に巧みに包摂されているのである（佐藤 1990）。

また、グローバル化のなかのインフォーマル・セクターについては、労働の女性化も問題の一つである（Charmes 2000）。嶋田は、インドネシア中部ジャワの女性小商人の事例を通じて、インフォーマル・セクターの女性労働は、世界規模の資本蓄積過程において構造的に利用されていることを示した（嶋田 1998）。学歴、元手のない女性はフォーマル・セクターから排除され、農業部門では技術革新によって雇用機会を失いやすい。さらにインフォーマル・セクター内でも、小規模事業として高収入の可能性のある屋台など有利な仕事は男性、零細なサービス業や家事使用人など無償の家事労働の延長の仕事は、低賃金の女性労働となっている。これらを嶋田は、新国際分業にともなうインフォーマル・セクターの「主婦化」と見ている。ジャワ伝統の妻の経済的責任という価値観が、無償の家事労働、インフォーマル・セクターの女性低賃金を正当化しているのである。

経済発展の著しいインドにおいても、インフォーマル・セクターは変化し、重層化している。カスナビスは、インフォーマル部門の労働過程として、機織り産業を例にとっている。伝統的な内職的自営業であった機織りが、市場化の中で、金貸しがデザイン、技術指導などの形で介在することによって、労働が下請け化、単純化するインフォーマル化が進行していく過程を示している（Khasnabis 2001）。

木曾は、インドのインフォーマル・セクターの労働市場について、1980代からの研究をふまえて分析をしている。インドでは、IT産業などの順調な成長によって新中間層が都市労働市場の2割近くを占めるようになってきている。しかし統計的にみると、フォーマル・セクターの製造業で雇用が伸び悩み、インフォーマル・セクターが肥大化し、貧困の分かち合いとなっている。フォーマル・セクターの成長は著しいが、インフォーマル・セクターからフォーマル・セクターの移動はかなり限定的である。ここでもインフォーマル・セクター労働力の女性化がみられるが、それはこれまで不可視的であった労働の可視化の側面が大きい。1991年の経済自由化後、インドでは、労働の非正規化が進行している。フォーマル・セクターの雇用を喪失した場合、フォーマル・セクターでの再雇用はきわめて困難であり、このことがインフォーマル・セクターの増大、新しい貧困層を生み出しているのである（木曾 2003）。

また、市場経済を導入した中国では、農村から都市に流入した人々によってインフォーマ

ル・セクターが拡大している。インフォーマル・セクターの賃労働は臨時雇いの出稼ぎ労働者、長期滞在者は自営業になっていること、が調査によって確かめられている (Xin 2001)。中国では、開放経済下における雇用対策として、インフォーマル・セクターを推進する方向にある。ILOの定義では参入が自由とされるインフォーマル・セクターであるが、出稼ぎ労働者については地縁血縁ネットワークによる労働市場への参入障壁があるとする報告もある。一方、重慶の棒棒軍 (荷物運び) の事例のように、競争的労働市場として明確な地縁血縁ネットワークのみられない例もある (小原 2004)。

グローバル化におけるインフォーマル・セクターの変化として、青木はフィリピンの事例をふまえて労働のインフォーマル化を指摘する。フォーマル・セクターの経済活動の中、フォーマル・セクター職種が労務費削減のための雇用流動化によってインフォーマル化するとともに、雇用の不安定な新労務層など新たなインフォーマル・セクター職種が出現している。その結果増加しているのは世帯の多就労化である (青木 2003)。

都市貧困の現れ方として、スラム・スクオッターの郊外化、野宿者出現も見られるようになってきた。青木はこれを、経済のグローバル化の中、先進国/途上国都市同時に進行する労働と貧困の変容と捉えている。従来の途上国都市研究では下層労働者、インフォーマル・セクター、スラム・スクオッター居住者の三者を重ねていると考えてきたが、そのずれは大きくなっている。インフォーマル・セクター就労者には非下層の自営業者もおり、スラムやスクオッターには非貧困者も住んでいる。逆にフォーマル・セクター就労者には下層労働者もおり、一般地域には貧困者も住む。

4 廃品回収業にみるインフォーマル・セクターの変化

(1) 廃棄物部門とインフォーマル・セクター

インフォーマル・セクターの位置づけの変化を、廃棄物部門における「くず拾い」を例に、追ってみよう。廃棄物部門におけるインフォーマル・セクターとの関わりは、都市化による廃棄物の変化および、経済発展と市場化による廃棄物の経済的価値と密接に関わっている。その意味で、都市化は擬似的説明変数だとも言える (Rogerson 2001)。

ゴミ集積場のゴミ拾い、ゴミ収集場所からの収集人、各戸をまわる収集人、行政のゴミ収集人による資源回収など、さまざまな場所でゴミを分別して拾う「くず拾い」は、廃棄物部門の末端を担うインフォーマル・セクターの典型的な職種の一つである。発生源→回収(人)→(仲買人)→リサイクル産業という基本的プロセスは、先進諸国でも途上国でもほぼ同様である。しかし、先進諸国では、ゴミ問題として、分別は発生源である人々の環境意識の問題であり、収集、リサイクルの主体は行政となる。⁽³⁾ 一方で、さまざまな廃棄物が経

済価値を持つ途上国においては、このあらゆるプロセスにインフォーマル・セクターが介在することになる。

(2) 廃棄物部門におけるインフォーマル・セクターの連関

ダッカ（バングラデシュ）のゴミリサイクルのシステムにおいては、行政やリサイクル産業であるフォーマル・セクターと「くず拾い」インフォーマル・セクターのリンケージが作られている。子供による個別回収、収集場回収、ゴミ集積場回収、市の収集人による回収などの多様な「くず拾い」から元締め、仲買人、リサイクル産業が密接に連関している。近年になって増大しているプラスチックリサイクルについても同様の連関が見られる（Sinha 1995）（Ahmad 2001）。雇用規模は20万人、ダッカでは重要な就労部門である。

ハノイ（ベトナム）における、廃棄物とインフォーマルなリサイクル活動においても、ダッカとの共通点が多い。くず拾い（約1万人）、回収人、仲買人、問屋、リサイクル事業所が密接に繋がっている。ここでは行政の関わりは今後の課題とされている（Ngo 2001）。

北京においても廃品回収業は、都市における地方出身労働者の重要な労働市場となっている。就業には特定の地域出身であるという地縁血縁ネットワークが重要で、業種内の社会関係を資源として就業が実現しているため、他地域出身者には参入障壁となっている（山口 2003）。かつては計画経済の下に独占的に経営されていた廃品回収業が、経済自由化によって多様なインフォーマル・セクターを生み出している。現在でも集積場経営権、廃材取り扱い許可書などで集団所有企業の独占があり、このすきまを埋めているのがネットワークなのである。

(3) 衰退する「くず拾い」

中西は『スラムの経済学』（1991）において、1980年代のフィリピンのゴミ集積場の近くにあるスラムにおける廃品回収人（くず拾い）、仲買人、卸のインフォーマル・セクター内のネットワークを明らかにした。この知見は、前述のベトナムやバングラデシュの事例にほぼ一致する。しかし、95年にそのスラムの10年間の変化（1984～1994）を追ったところ、スラム住民の就業はかなり変動していた。廃品回収人（くず拾い）が減り、土木建設労働手伝い、工場臨時工が増えていたのである。この指摘は青木の指摘する労務層の増大と重なる。インフォーマル・セクターの典型的就業が、自営または請負を主流としていることは変化ないが、収入はあまり改善せず、貧富の格差はむしろ開いていた（中西 1995）。

土木請負においては、労働者集団の形成、工場労働者への参入には親族、同郷者関係による紹介がみられるなど、労働市場内の移動にネットワークが何らかの役割を果たしている点は、1980年代からの特徴を引き継いでいる。中西は、外部の市場経済によって、都市イン

フォーマル部門が衝撃を受けたとき、内部に存在する「慣習経済」がきわめて柔軟な対応を示しつつ変容している方向性を示唆する事象と見ている。

中西の知見は、筆者が1980年代に調査したタイのスラムのその後の変動でも、確認できる(松蘭 2002)。第一に、インフォーマル・セクター就業者は不安定就業層であることは変わりなく、スラム住民のインフォーマル就業率は高いままだが、その職種内容は変化し、工場などの臨時工、季節工、日雇い労働、内職などが増加している。第二にタイでは若年層は周知的ではあるがフォーマル・セクター労働にも参入したり、成功して高収入を得ている小規模自営業者もいたりするが、貧富の格差は広がっていることである。⁽⁴⁾

一方で、また、廃品回収業については、タイやフィリピンでは、すでに、くず拾いー元締めーリサイクル産業のかたちから、リサイクル産業が分別下請けを取り仕切り、末端の分別業を単純化する労働のインフォーマル化の形をとりつつある。市場価値のあるものが変化し、価格も流通もグローバル化にまきこまれている。雑業的なくず拾いで生活していくのは困難になりつつあるのである(松蘭 2003)。

青木も指摘しているように問題点は貧困層、スラム住民、インフォーマル・セクターのずれにある。1980年代以降のタイの都市貧困政策を、貧困問題の解決の視点から検証した遠藤も、貧困者政策がインフォーマル・セクターに届かない理由を、このずれにあるとしている(遠藤 2003)。

都市貧困層に対する空間的政策であるスラム対策(土地問題、物理的環境問題を対象とする)、福祉政策として行う貧困者支援と、インフォーマル・セクター対策である小規模自営業支援はターゲットがずれている。ターゲットには貧困層以外も含まれるし、スラムに居住していないこともある。さらに、多様化しているインフォーマル・セクターの一部に過ぎない。インフォーマル・セクターはさまざまな形でひろがりますます、あいまいなものとなっている。

5 インフォーマル・セクターの新たな課題： 「インフォーマル経済」と「ディーセントワーク」

2002年のILO第90回総会では「インフォーマル・セクター」にかわって「インフォーマル経済」活動という言葉で、グローバル化のなかでの労働状況を捉えた。

経済がグローバル化するなかで、雇用の柔軟化、国境を越えた作業工程の再編成が増加し、在宅、下請け、日雇い、臨時雇い、パートタイムなど非正規、非公式の労働が増加した。基準外の労働者すべてがインフォーマルなわけでも低収入であるわけでもない。「インフォーマル・セクター」という用語はこの流動的で異なる要素からなる現象の複雑な性格を

表現するには、不適切になってきた。「インフォーマル経済」とは、生産関係と雇用関係の両方にわたる非正規さの概念をさし、農村部でも都市部でも拡大し多様化しているさまざまなインフォーマルな労働者グループや事業体を指す言葉である。この労働者の抱える問題やニーズは異なっているが、組織に守られない脆弱な立場にある人々（女性、若者、児童、移民）であることは共通しており、グローバル化の否定的インパクトを強く受ける層である。グローバル化による雇用の流動化、非正規労働の拡大とインフォーマル・セクターの増大をあわせて「インフォーマル経済」の問題ととらえたのである。インフォーマル経済の拡大は先進国においてもみられる現象である。ILOは、これらをディーセントワーク（適切な人間らしい労働）の欠如と捉えて課題としたのである。

ILO目標は働くすべての人々に「ディーセントワーク」が保障され、グローバル化の恩恵を公平に享受できるように、雇用の促進をはかりつつ、貧困、性、差別、児童労働などを排除していくことにある。具体的にインフォーマル経済に従事する労働者が、労働法制、良き統治をめざして、団結権、団体交渉権をもつことであり、中長期的に、インフォーマル事業に関する諸規制を緩和し、職業能力開発、法的知識向上、育児介護支援、包括的貧困削減戦略などを行うことである。

途上国の貧困問題に対する社会開発政策のターゲットであったインフォーマル・セクターは、新しい貧困問題として、すべての国の労働者の「ディーセントワーク」を求める問題へと変化してきているとも言えるのである。

結 語

70年代から始まる初期のインフォーマル・セクター研究では、過剰都市化、インフォーマル・セクター、スラム・スクワッターが一体のものとして論議され、その定義、規模、実態が問題であった。インフォーマル・セクターは、経済発展にしたがって縮小するものと捉えられていた。

80年代以後、事例研究などを通じて実態の解明がすすむにつれて、インフォーマル・セクターの多様性が明らかになってきた。必ずしも低収入ではないこと、スラム・スクワッター等に居住しないインフォーマル・セクター就業層もいること、途上国都市における雇用、貧困層の生活の支えであること、フォーマル・セクターの下請けの要素（依存部門）などフォーマル・セクターとのリンケージや経済発展への寄与、競争的市場だけではなくネットワークによる雇用などの閉鎖性、中上層の生活のインフォーマル・セクターサービス部門への依存、などであった。これらに対応して、インフォーマル・セクターは、開発政策のターゲットの一つと位置づけられた。しかし、貧困層、スラム、インフォーマル・セクターのず

これは、政策がターゲットに届かないことの要因となる。

さらに、80年代後半以降、グローバル化の影響が、インフォーマル・セクターを変化させていく。インフォーマル・セクターの典型的な職種であった「くず拾い」だけを例にとっても、この変化は見るができる。今日でも、バングラデシュやベトナムのようにインフォーマル・セクター「くず拾い」が、リサイクル産業の重要な位置を占めている国もあるが、フィリピンやタイでは、すでに広範な労働のインフォーマル化のなかで、格差拡大の最底辺になりつつある。

ILOは、80年代にインフォーマル・セクターを定義し、雇用と収入の面から貧困層の生存戦略として評価することで問題提起をした。しかし、90年代には労働条件の改善、労働者の権利改善は必然であることを強調した。さらに、グローバル化によって、インフォーマル・セクターの多様化、格差拡大がおり、先進国も含めて、広範な労働のインフォーマル化が進行した。ILOではこれを「インフォーマル経済」の進展と捉えている。

インフォーマル・セクター論は発展途上国の都市化のある過程だけに限定された議論であるから、すでに有効性はないとされることもある。しかし、グローバル化のなかで、起こっている変化は、先進国を含む貧困の問題の解明に重要な示唆を与える議論である。先進国、途上国を通じてグローバル化における下層労働を解明していく手がかりとしても有効性を持つと言えるのではないか。途上国の都市インフォーマル・セクターにのみ注目するのではなく、都市-農村関係の中に位置づけたインフォーマル・セクター、さらには労働のインフォーマル化を含む「インフォーマル経済」の問題として議論する必要性、また、先進国も含めグローバル化する労働市場のなかに位置づける必要性がある。

<注>

- (1) インフォーマル・セクターの表記については、研究者によってインフォーマルセクターとするものとインフォーマル・セクターとするものがある。本稿では、インフォーマル・セクターに統一して記述している。
- (2) 雇用状況を例にとると、正規雇用／非正規雇用が一つの指標となるが、零細自営業、家族従業員の算入方法が問題となる。露天商は零細自営業であるから、算入すべきだが、家族経営の商店も統計上はおなじカテゴリーになってしまう。
- (3) 先進諸国でも、ホームレスなどによる廃品回収は存在しているが、かつては、貧困層の主要な職種であった。
- (4) 筆者が1981年に調査を行ったスラムについて、その後、1986年、1991年、1998年、2001年に再訪し、簡単な聞き取りを行ったものである。

<参考文献>

- Acharya, Sarthi, 1983, "Informal sector in developing countries: a macro viewpoint," *Journal of Contemporary Asia*, 13(4): 432-445.
- Ahamed, Shaheen & Rhaman, Maksudur, 2001, "Factors influencing the industrial growth of informal plastic recycling industries in Dhaka city," *Journal of the Asiatic Society of Bangladesh*, 46(2): 405-423.

- Amin, A. T. M. Nural, 2002, *The informal sector in Asia from the decent work perspective*, (employment paper 2002/4) Geneva, ILO.
- Anand, V. K., 1999, "Informal sector and its role in employment creation in developing countries" *Asian Economic Review*, 41 (3): 423-437.
- Anderson, Patricia Y., 1987, "Informal sector or modern labor market? Towards a synthesis", *Social and Economic Studies* (Kingston) 36(3): 147-176.
- 青木秀男, 2003 「新労務層と新貧困層－マニラを事例として」『寄せ場』No.16 110-129.
- Arief, Sritua, 1987, "Informal sector in Indonesia: a macro viewpoint," *South East Asian Economic Review* (Kuala Lumpur) 8(3): 225-251.
- Aryee, George A., 1996, *Promoting Productivity and Social Protection in Urban Informal Sector*, Project Implementation Report, ILO.
- Charmes, Jacques, 2000, *Informal sector, poverty and gender: review of empirical evidence*, World Bank.
- Das, Keshab, 2000, "Workers and earnings in informal manufacturing -- evidence and issues in estimation," *Indian Journal of Labor Economics*, 43(2): 261-276.
- Dasgupta, Sukti, 2003, "Structural and behavioral characteristics of informal service employment: evidence from survey in New Delhi," *Journal of Development Studies*, 39(3): 51-80.
- Duraisamy, P., 2000, "Migration, remittances and family ties in urban informal sector," *Indian Journal of Labor Economics*, 43(1): 111-119.
- Dwianto, Raphaella D., 2003, 「変容する路地裏空間とインフォーマルセクターの地層－ジャカルタのカンブンにおけるブダガン・クリリンについて」(特集 グローバル化とアジア社会の変容－東南アジア地域研究の視点から)『地域研究論集』5(2): 95-114.
- 遠藤 環, 2003, 「タイにおける都市貧困政策とインフォーマルセクター論: 二元論をこえて」『アジア研究』49(2): 64-85.
- 不二巻駿, 2001, 『路地の経済学 タイのインフォーマルセクターについて』めこん
- Hasan, Arif, 2002, "The changing nature of the informal sector in Karachi as a result of global restructuring and liberalization," *Environment and Urbanization*, 14(1): 69-78.
- 幡谷則子, 1986, 「ラテンアメリカにおける都市インフォーマルセクター論」『アジア経済』27(12): 45～65.
- Hussmanns, Ralf & Jeu Brigitte, B., 2002, *ILO Compendium of official statistics on employment in the informal sector*, ILO.
- Ihrig, Jane, 2001, "Tax policies and informal employment -- the Asian experience," *Asian Economic journal*, 15(4): 369-383.
- 池野 旬・武内進一, 1998, 『アフリカのインフォーマル・セクター再考』アジア経済研究所
- ILO, 1972, *Employment Income and Equality: Strategy for Increasing Productive Employment in Kenya*. Geneva, ILO.
- ILO Technology and Employment Branch, 1990, *Informal sector and urban employment: a review of activities on the urban sector*, Geneva, ILO.
- ILO/Japan project on strategic approaches toward employment promotion, 1996, *Channel for change: the urban informal sector in Thailand*, Bangkok, ILO Regional Office for Asia and the Pacific.
- ILO, 2002, *Women and men in the informal economy: a statistical picture*, Geneva, ILO Employment sector.
- ILO, 2003, *Decent Work and the Informal Economy*, (International Labour Conference 90th Session 2002)
- Khasnabis, Ratan & Nag, Prangab, 2001, "Labor process in the informal sector -- a handloom industry in Nadia district," *Economic and Political Weekly*, 36(52): 4836-4845.
- 木曾順子, 1987, 「第三世界のインフォーマル・セクター－実態へのアプローチ」『アジア研究』34(1・2): 46-69.
- 木曾順子, 2003, 『インド 開発の中の労働者－都市労働市場の構造と変動』日本評論社
- 小島麗逸, 幡谷則子, 1994, 『発展途上国の都市化と貧困層』アジア経済研究所
- 今野裕昭, 1989, 「都市化とインフォーマル・セクター－インドネシアを素材にして」『秋田大学教

- 育学部研究紀要』40: 111-126.
- Maldonado, Carlos, 1995, "Informal sector: legalization or laissez faire ?" *International Labor Review*, 134(6): 705-728.
- 間瀬朋子, 1999, 「パサールのくらしー「インフォーマル・セクター」としてのパサール」『上智アジア学』17: 183-212.
- 松藪（橋本）祐子, 2002, 「バンコクにおけるコミュニティ開発：スラムの改善に向けた意義」『いわき明星大学人文学部紀要』15: 86-98.
- 松藪（橋本）祐子, 2003, 「タイにおける廃品回収業－都市下層の生業から農村インフォーマル部門の小規模自営業へ－」『寄せ場』No.16: 130-147.
- 御園生道子, 1997, 「ケニアにおけるインフォーマル・セクター援助の方向性－製造業（ジュアカリ）に焦点をあてて」『国際協力研究』13(1): 47-55.
- 中西 徹, 1990, 「「暗黙の契約」と都市インフォーマル部門の経済理論」『社会科学ジャーナル』28(2): 119-146.
- 中西 徹, 1991, 『スラムの経済学 フィリピンにおける都市インフォーマル部門』東京大学出版会
- 中西 徹, 1995, 「フィリピンにおける都市インフォーマル部門の変容－1985年～94年」『経済学論集』（東京大学経済学会）61(1): 42-63.
- Ngo, Dao, 2001, "Waste and informal recycling activities in Hanoi, Vietnam," *Third World Planning Review*, 23(4): 405-429.
- 新津晃一, 1988, 「発展途上国都市インフォーマルセクターに関する覚え書き－フォーマルセクターとの関連をめぐって」『社会科学ジャーナル』26(2): 31-59.
- 新津晃一編, 1989, 『現代アジアのスラム』明石書店
- 小原江里香, 2004, 「「インフォーマル・セクター」の就業構造－重慶市「棒棒軍」を事例に」『現代中国』（78）107-120.
- Ofreneo, R., 1994, *Informal sector: labor laws and industrial relations*, Manila, ILO.
- バスク・ボンバイチット, 糸賀 滋, 1993, 『タイの経済発展とインフォーマル・セクター』アジア経済研究所 1993年
- Rogerson, Christian, M., 2001, "The Waste Sector and Informal Entrepreneurship in Developing World Cities." *Urban Forum*, 12(2):247-259.
- 佐藤元彦, 1989, 「周辺部工業化過程におけるインフォーマル部門」『広島平和科学』12: 105-132.
- 佐藤元彦, 1990, 「現代的工業化とインフォーマル部門－「韓国モデル」論の検討を一つの素材にして」『経済評論』39(5): 98-113.
- Sethuraman, S. V., 1976, *Jakarta: Urban development and unemployment*, Geneva ILO.
- Sethuraman, S. V. ed., 1981, *The informal sector in developing countries: Employment, Poverty and Environment*, Geneva, ILO.
- Sethuraman, S. V., 1985, "Informal sector in Indonesia: Policies and prospects," *International Labor Review*, 124(6): 719-735.
- Servais, Jean-Michel, 1992, "Informal sector: any future for labor law ?" *International journal of labor law and industrial relations*, 8(4): 299-318.
- 嶋田ミカ, 1998, 「インフォーマル部門の女性労働と家族－インドネシア・中部ジャワの事例から（テーマ：ジェンダーからみた家族）」『国立婦人教育会館研究紀要』2: 57-68.
- 下川雅嗣, 1998, 「都市インフォーマルセクターでの事業機会と農村都市間労働移動－フィリピン経済のケーススタディ」『アジア経済』39(6): 23-42.
- 下川雅嗣, 1999, 「インフォーマルセクター生産財市場の競争政策－小規模事業家の市場へのアクセスの改善」『アジア経済』40(2): 2～18.
- Shinha, A. H. M. Manqsood & Nurulamin, A. T. M., 1995, "Dhaka's waste recycling economy: focus on informal sector labour group and industrial district", *Regional Development Dialogue*, 16(2): 173-197.
- Sungoonshorn, Somboon & Nurulamin, A. T. M., 1995, "The informal sector's access to local government service: focus on Bangkok's slums." *Regional Development Dialogue*, 16(2):146-167.

- Tolentino, Ma. Catalina M., et al., 2001, "Survey and assessment of laws on the informal sector," *Philippine Journal of Development*, 28(1): 106-137.
- 鳥居泰彦・積田 和, 1981, 「経済発展とインフォーマル・セクターの膨張」『三田学会雑誌』, 74(5): 1-46.
- 鳥居泰彦, 小保内弘子, 1990, 「インフォーマル・セクターにおける家計行動 — 主体的均衡理論と実証分析」『三田学会雑誌』 82(4): 718-740.
- 辻 忠博, 1994, 「経済発展とインフォーマル・セクター論の展開」『経済集志』(日本大学経済学研究会) 64(3): 327-338.
- Uppal, J. S., 1989, "Informal sector in third world countries," *Journal of Developing Societies*, 5(1): 42-57.
- Visaria, P. et. al., 1995, *Informal sector in India: estimates of its size, and needs and problems of data collection*, International Seminar on Informal Sector Employment Statistics, Ahmedabad.
- Waite, Louise, 2001, "Kerala's informal labor market interventions -- From work to well-being?" *Economic and political weekly*, 36(26): 2393-2397.
- 渡辺利夫, 1985, 「開発経済学—現代のアジア経済—6—労働移動と都市インフォーマル部門」『経済セミナー』 369: 119-125.
- Williams, Colin C., 1996, "Informal sector responses to unemployment: an evaluation of the potential of local exchange trading system," *Work, Employment and Society* (Durham), 10(2): 341-359.
- Xin, Meng, 2001, "The informal sector and rural-urban migration -- a Chinese case study," *Asian Economic Journal*, 15(1): 71-89.
- 山口真美, 2003, 「中国都市インフォーマルセクターにおける地方出身者の就業構造」『アジア経済』 44(12): 28-56.
- 山下里愛, 2001, 「経済危機がタイの女性労働に与えた影響—インフォーマル・セクターで働く女性の増大」『わたしの21世紀』 27: 32-34.
- 矢内原勝, 1982, 「西アフリカ諸国都市内フォーマル・セクターとインフォーマル・セクター—農村より都市への労働移動」『アジア経済』 23(10): 2-19.

Some Aspects of Informal Sector Studies: From the Theory of Over-urbanization to Labor Informalization under the Globalization

Yuko (Hashimoto) MATSUSONO

The aim of this paper is to examine the changes in the informal sector in developing countries. It was exactly 30 years ago that the ILO first used the term “informal sector” to describe the activities of the working poor in developing cities. Early studies on the informal sector were marked by an intense focus on its role of the informal sector in the development process. The informal sector was regarded as the central problem involving urban poverty under the over-urbanization in developing countries.

Current studies deal mostly with the heterogeneity of the informal sector is an important issue. It appears that a meaningful policy cannot be formulated for such a diverse entity. In recent years, economic globalization has had a powerful influence on the urban labor market including the informal sector. Some studies highlight this sector’s role in stimulating the growth of the market economy. However, the informal sector labor has become a convenient means for pursuing the global agenda of privatization and liberalization. The consequent expansion of the unprotected, low income and flexible labor market has resulted in a high level of insecurity among all workers.

Although the ILO had emphasized the “dilemma of the informal sector” in its 1991 report, this dilemma continues to exist. Thus, in its 2002 report, the ILO is paving the way for focusing on the informal sector from a viewpoint of decent work.